

最終報告

チームM2

- 課題を検討する中でのぞみカフェnanairoのデザインを考えた。



- 黒と木目を基調としたデザインで完成されているため何か付け加えることで雰囲気損なわれる。



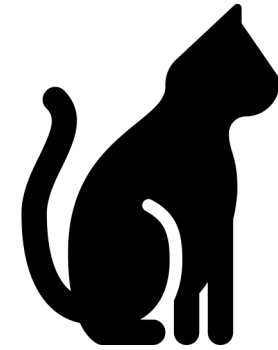
- イベントを考えたがnanairoでは地域の方や施設の方を巻き込んだイベントをすでに行っている。



- Nanairoが行っていない新しい取り組みができないか？

- 主とする対象が老若男女を問わないためすべての年齢層が来たくなる取り組みを考え、なおかつ、カフェとしてでなく気軽によりたくなる場所作りを考えた。

猫カフェ



猫なら子どもや大人や男女に関わらずハマるのではないか。

カフェの機能はそのまま猫と触れ合うスペースを設けることで猫に会いにくるだけや理想ではそのままカフェを利用してもらおう。

元のデザインである黒と木目を基調としたスペースにすることで雰囲気損なうことを防げるのではないか。

- 実際に猫と触れ合うことのできるスペースは入口付近が良いのではないかと考える。



- 店の奥にしてしまうとカフェを横切るため気軽に立ち寄りづらいと考えた。

- 猫の飼育はカフェだけでなくカフェ近隣のみつわ会の施設にも協力を検討（のぞみの家、ひだまり、のぞみの園）それぞれ1匹ずつ
- 施設で飼うことで猫とのふれあいで施設の方にアニマルセラピーの効果
- 猫を通して施設同士の交流になればよい。

- 飼育する猫は3匹 一日交代で1匹カフェに出勤してもらう。他の猫は飼育されている各施設で過ごして、可能ならば利用者さんと触れ合ってもらおう。
- カフェの利用者には自分の押しの猫を見つけてもらいリピーターを狙う。
- 他の施設の猫を見てみたいとなればみつわ会の利用者さんもカフェに来てもらうことができるし他の施設に広まれば利用者さん同士での交流が増えるのではないか。

- カフェの営業終了後に猫たちを集め夜間はカフェで飼育する
- 夜間に問題を発見するためにカメラを設置する。対処する際はサテライト老健ちわらなどの周辺のみつわ会の施設と連携して対処を行う。
- 猫カフェの認知は猫にのぞみカフェと分かるようにデザインしたハーネスを付けて散歩をしてもらい地域の方の目に触れるようにする。

→しかし、猫を配置するだけでお客さんは来てくれるのだろうか？

対策

- イベントを行い、集客を図る。

猫を置いたとしても、都会に比べて地方の客はあまり気軽にお店に来るわけではない。抵抗がある。

→例として一緒に猫のゲージを作ることで、「自分が関わった」という意識を持ってもらう。そこから施設にいる猫のことが気になるようになり、家から猫のために食べ物や遊び道具を持って、気軽に立ち寄れるようになると考える。